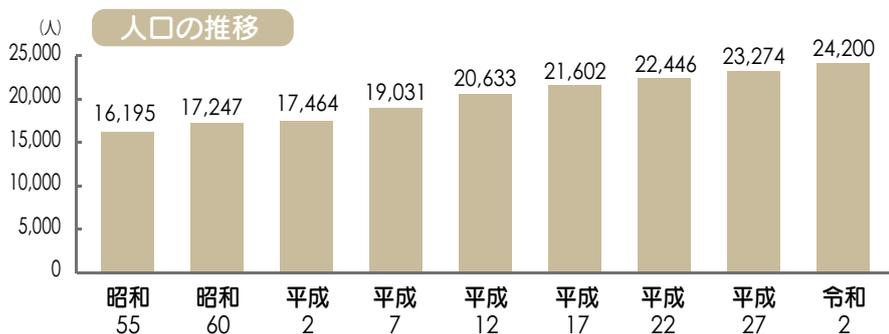
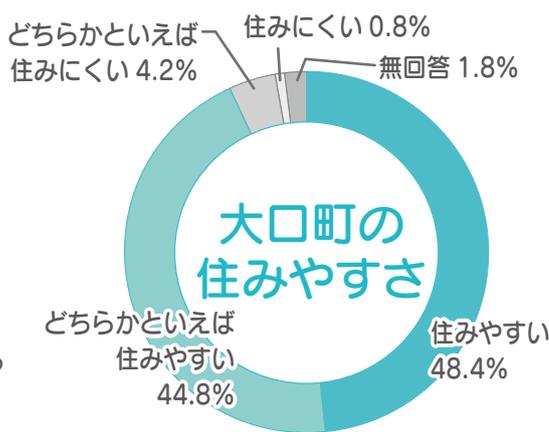
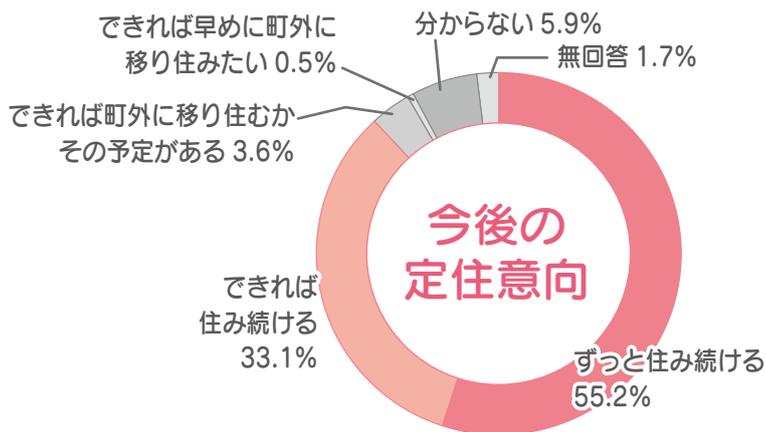


# SDGs とともにあゆむ 大口町の未来に向けて



令和3年度 第7次総合計画基本計画改訂版に関するアンケート調査(今後の定住意向)で、8割を超える住民の皆さんが、今後大口町に「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答しました。大口町にずっと住み続けるためには、一人ひとりが未来のためにできることを考えることが必要です。大口町も、これからのまちづくりにSDGsを取り入れ、2030年のまちのめざす未来を考えることになりました。



第7次総合計画基本計画改訂版・大口町プロモーション戦略・第一期アクションプランより

## 大口町の魅力は？

- 1位 **桜・五条川**  
自然がたくさんある
- 2位 都会に近いが、ほどよく田舎
- 3位 自宅と職場が近い
- 4位 魅力的な仕事・職場がある
- 5位 スーパーが充実している

### 私たちの意識が変える未来

2015年(平成27年)にSDGsの課題への取り組みが国連にて採択され、2030年までの解決へと世界中が取り組み始めてもうすぐ丸6年になるつとじています。

「国連で採択」といわれると、何やら雲の上の言葉のように感じ、私たちの日常生活に関わることではないような印象を持ってしまいましたが、中身である17の目標ひとつひとつを見ると、どれも私たちの生活と不可分のものばかり。むしろ、「これって当たり前のことじゃない?」「頭ではすでにわかっているよ」というものが多いのです。つまり、どの目標もこの6年の間にすでに私たちの生活の中に入り込み始め、みんなの共通認識として定着しつつあるものばかりなのです。

「国連で採択」といわれると、何やら雲の上の言葉のように感じ、私たちの日常生活に関わることではないような印象を持ってしまいましたが、中身である17の目標ひとつひとつを見ると、どれも私たちの生活と不可分のものばかり。むしろ、「これって当たり前のことじゃない?」「頭ではすでにわかっているよ」というものが多いのです。つまり、どの目標もこの6年の間にすでに私たちの生活の中に入り込み始め、みんなの共通認識として定着しつつあるものばかりなのです。

「誰も置き去りにしない」世界を目指して  
持続可能な開発目標 (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標 SDGs「**S**ustainable(持続可能な) **D**evelopment(開発) **G**oals(目標)」とは、2015年9月の国連サミット(参加しているのは国連加盟の193か国)で採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として発表されました。「地球上の誰一人取り残さない(No one will be left behind)」ことを理念として、17の目標(持続可能な開発目標)と169項目のターゲット(具体目標)を掲げています。世界にある課題を世界で解決するための目標…。それは私たちの生活の身近な問題に当てはまることがたくさんあります。

身近なことを、できるところから

例えば、今や常識となった「エコバッグ」。レジ袋の有料義務化が実施されたのは2020年7月のことで、実はまだ1年もたっていないのですが、すっかり常識として定着しています。プラスチックごみを減らす目的でそれまで当たり前のように無料で大量に配られていたレジ袋を段階的に廃止。スーパーマーケットやコンビニエンスストアの買い物では、有料でレジ袋を購入するか、または「マイバッグ(エコバッグ)」を持参して買い物を入れて持ち帰るかの選択となりました。始まった当初は、今まで無料で配られていたものにお金を払うことへの抵抗感や、マイバッグを持ち歩くことのわずらわしさ、戸惑いがあったものの、あっとい間にマイバッグが浸透。いまや、オシャレで機能的なマイバッグを何枚も持っている、という方が少なくないのではないでしょうか。

そもそも、日本のプラスチックごみの排出量は深刻で、世界第2位という統計もあります。そのうち半数近くをレジ袋やペットボトル、包装容器などの使い捨てプラスチックが占めています。レジ袋の有料義務化の次は、マイボトルの持ち歩きや、有名コーヒー店でのプラスチック製ストローやスプーンの廃止の動きへと拡大しています。プラスチックごみを減らすこ

とは、深刻化している海洋汚染の防止、地球温暖化の抑制などにつながり、私たちの住環境へ良い影響があることをみなで理解しているからこそ、このような取り組みが抵抗感なく受け入れられ、今や客側も積極的な協力体制で臨む風潮へと変わっています。また、企業側も環境に配慮した製品を提供することが企業イメージのアップにつながるため、たとえコストが余分にかかろうとも環境に負荷をかけない取り組みを積極的におこなうことを指標として掲げる動きが広がっています。みなさんも、「リサイクル材」を使っていることをアピールした製品や、エコパッケージを採用した商品、MSC<sup>※</sup>認証の魚がスーパーマーケットで売られているのを見かけたことがあるのではないのでしょうか。もはや、環境に配慮した活動することは企業の義務となりつつあるのです。

※イギリスに本部のある海洋管理協議会 (Marine Stewardship Council) が「持続可能で適切に管理され、環境に配慮した漁業による水産物」であると認証されたものに与えられるマーク

## 大口町とSDGs

2016年に策定された大口町第7次総合計画(2016年から2025年)の中間見直しが今年3月に提出されました。未来へ続く行政経営を進めていくためには、SDGsを意識しながら施策を推進していく必要があるとの観点から、基本計画の中間見直しにあたって各基本施策がSDGsの17のゴールに関連付けて整理されました。

その中で、「環境負荷の少ない地域社会の形成」「廃棄物・リサイクル」の項目においては、未来に引き継ぐ環境保全の観点から、「大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から限りある資源を有効に活用する循環型社会への転換」が望まれている現状を掲げ、再生可能エネルギーの導入、温室効果ガスの削減、自然保全と、そ



れに伴う環境学習、環境美化活動、ごみの減量化・資源化などの取り組みを推進することを明記しています。

### 環境負荷の少ない地域社会の形成 (施策28)



### 廃棄物・リサイクル (施策29)



この項目に関してだけを見ても、私たちができることはたくさんあります。前述のエコバッグの導入はもちろんのこと、例えばフードロス(食べ残し)を減らす、ごみはできる限り分別する、過剰包装を断ることなども私たちが身近に取り組めるSDGsです。その他にも、「冷暖房を最小限にする」「近所のコンビニに行く

ときには歩く」などもCO<sub>2</sub>排出を抑えることにつながり、よりよい環境を作っていく取り組みといえます。

普段何気なくおこなっている取り組みの中に、実はSDGsの目標にあてはまっていることがたくさんあります。SDGsは日常と密接に関わっていて、ほんのちょっと意識するだけで無理なく簡単に取り組めることが多いのです。

ほんの少しの意識転換が、大口町をより住みやすく安全なまちにし、ひいては未来の子どもたちによりよい地球を残すことにつながります。コロナ禍で普段の生活のありがたさが身にしみている今こそ、一人ひとりのよりよい暮らしや幸せにつながる行動を意識し、SDGsを普段の生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。

